

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年1月10日発行 No.27

『新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば両方とも長持ちする。』

(新約聖書 マタイによる福音書 第9章17節)

<始めと終わりに心を込めて…。2016年の仕事納め礼拝&事務所祝福式を挙行!!>

皆様、明けましておめでとうございます!! 本年もキリスト教センターをよろしくお願いたします!! またこのチャプレン通信も週刊で発行していきたいと思っていますので併せてよろしくお願いたします!!

新しい年の歩みが始まっていますが、昨年最後のニュースを一つ。2016年の最終勤務日となる12月28日に、仕事納め礼拝がチャペルで挙行され、多くの教職員の方々が出席される中、クリスマスの聖歌を歌い、前田理事長のメッセージに耳を傾けました。イエスの有名な言葉「神と隣人を愛しなさい」をテーマに、神が建てられたこのKIUで働くということ、その源泉に流れている「愛」を説かれた前田理事長。出席者は、今年一年を振り返りつつ、その歩みが守られた事への感謝を胸に留めているようでした。また礼拝後に、最も学生の往来が激しい2号館教学センターの祝福式も併せて執り行われました。

このような「終わり」を丁寧にすることは、新しい「始まり」を整える力を持つと思います。新しい年の歩みも、その一步一步が見えない主の導きによって支えられている事を覚えながら、共に歩みを進めていきたいと願います。どうぞよろしくお願いたします!!



KIUの土台にある「愛」を説かれる理事長と、それを心に留める出席者 教学センターも祝福されました

<2016年の大切な昼礼拝のデータをもう一つ!! 皆様のご協力に心から感謝いたします!!>

昨年2016年、4月からの昼礼拝総出席者数を計算すると…なんと4,125名!! また12月の礼拝出席者528名で、礼拝回数16回の平均は33名!! (今年初の30名越え!!) というすごい数字が出ました!! これも一重に、毎日の昼礼拝を覚えて出席して下さった皆様のご協力によるものと考え、心から感謝しております!! 同時に、奨励等ご協力下さった教職員・学生の皆様、奏楽で礼拝を支えて下さったオルガン友の会の皆様のお働きにも重ねて感謝申し上げます。

新しい年を迎え、更なる充実を目指してキリスト教センタースタッフ一同力を合わせていきたいと思っておりますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いたします!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

12月19日(月) 前田 次郎(理事長) テマ:「過去に目を閉じるものは現在に対して盲目になる」

今日の聖書のメッセージを一言で言い表すなら「回復」だ。戦後70年以上が過ぎた現代は大きな節目を迎えていると言われるが、その歩みはどうだろうか? ドイツのヴァイツゼッカー元大統領は、祖国が犯した大きな罪を前に「70年は、ある出来事の原因を感じなくなる時間だ」と警鐘を鳴らしている。真の回復は、忘却や黙殺ではなく、悲しみや苦しみを背負った人々の命を悼み、その責任を負うエネルギーを持つことだ。この一年を振り返る時、痛々しい事件や事故が起こったが、それらを忘れるのではなくしっかりと心に留めて新しい年に向かいたいと願う。

12月20日(火) 東 弘彦(事務局長) テーマ:「心に落ちた言葉から」

宇沢弘文の著書「経済学の実学」を読む中で、次のような言葉に感銘を受けた。「経済学者は、貧困と分配の問題に、自分の研究と関心の原点を持つことが多い。」文学部であった私は、経済学を実学・実利を求める学問だと思い込んでいたが、実は「人のため」の学びであった事を知った。リハビリテーションも、基本的に「全人的復権」(様々な障がいを抱えた人が、精神的、社会的、職業的、経済的などあらゆる面で人間らしく生きる権利を回復する事)という考えがある。我々は夢が叶うように、社会で少しでも有利になるように願って学ぶが、どの学問の根底にも上記のような「人のために」という思いがある事に気付けば、更に前に進む気持ちが与えられる。

12月21日(水) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「本末転倒」

先日、タバコを吸いながら運転する車の後ろに「赤ちゃんが乗っています」シールが貼ってあるのを見て違和感を覚えた。周囲の車に対する配慮は求めるが、自分の欲求は我慢しないという身勝手さに本末転倒な姿勢を感じた。しかしこのような本末転倒が、我々の身の周りにも結構多く存在していないだろうか? クリスマスを楽しむドイツで残虐なテロが起こったように今から約2000年前のクリスマスでもヘロデ王により本末転倒な事件が起こった。聖書ではこのような「本末転倒」を「罪」と呼ぶ。新しい年が近い。この時こそ自らの内の本末転倒を無くしたい。

12月22日(木) 小林 敬一郎(経済学部) テマ:「教会建築と私とウリアム・ムル・ヴォーグ」

私の専門である建築学の視点から建物を見ていくと、様々なメッセージが見えてくる。例えば、この礼拝堂。手を叩いた時に出る音と、話す声の響きが微妙に違うのは、天へと届くようにイメージして造られた高い天井、そして木製の壁や椅子が独特の音響効果を生んでいるからだ。また、正面の祭壇に向かって左右両側に作られた窓の大きさや形が違うのにも意味があり、時間や日の差し方によって十字架型の影ができる仕組みになっている。礼拝堂だけではない。神戸国際大学の建物全体にこのようなメッセージが込められている。これらを日々感じ、そして学び合いたい。

1月6日(金) 中原 康貴(チャプレン) テーマ:「神の視点」

以前、幼稚園の礼拝で、男の子からこんな質問を受けた。「神様の声は男の声?それとも女の声?」正直、この質問には驚かされたが、咄嗟に私はこう答えた。「神様の声は男の声や女の声の時、大人の声や子供の声の時もある。そして、時には鳥の鳴き声や花や草木、月や星の輝きを通して神は語られる。全てのものは神様が創られた。だから神はあらゆるものを通して、私たちに語りかけておられる。」と。私たちは一人ではない。神はいつも私たちと共にいて、親や友達のように寄り添い神は私たちに「正しい道を歩み、愛に満ちた幸せな人生を送って欲しい」と語りかけておられる。神の声にしっかりと耳を傾け、2017年をより良い年にして行きたい。

(文責:野間 光顕)